

研修報告書No. 2 4

所属：杏林大学医学部付属病院 研修医

研修先：本山町立国保嶺北中央病院

大川村国保小松診療所

いの町立国保長沢診療所

○県外在住医師から見た高知の地域医療の状況

高知県は人口当たりの医師数が多いにもかかわらず、医師の偏在により中心部から少し離れた地域では十分な医療が行き届いていないというのが現状だ。さらに、このような地域では公共交通機関はほぼ無いに等しく、自分で車を運転して通院しなければならない。高齢者にとっては病院を受診すること自体が難しい状況となっている。今回の研修ではこのような現場で働く方々の実際の声を聞き目を見て、改めて医療における地域格差を痛感した。

私が研修した嶺北中央病院は病床数 131 床で医師は 7 人在籍している。中核病院ということもあり CT、MRI、透析室などの設備は想像以上にしっかりと整っていた。こちらの医師は入院および外来患者さんの診療の他に、無医地区の診療所や独り暮らしの高齢者宅などへの訪問診療も行っている。何度か訪問診療へ同行したが、いずれも山の奥深く、高齢者が一人で生活している場所とはとても思えないようなところであった。このような場所で緊急的な処置が必要となった場合はドクターヘリが出動するが、天候や時間によっては動かないこともある。東京であれば、緊急時は 365 日 24 時間すぐに受診できることが当たり前であるが、こちらではそのようなことは通用しない。中心部から離れた地域の高齢者にとっては週に 2~3 日と限られた時間ではあるが訪問診療・診療所での診療がいかに重要であるかを実感した。

○研修内容に対する意見

今回の研修は 1 ヶ月という短い期間であったが、内科診療だけでなく訪問リハビリ、デイケア、リハビリカンファ、放射線科研修、検査室研修といった幅広い内容が組み込まれた研修であった。大学病院での研修ではあまり見ることがない内容であったが、実際に診療した患者さんのほとんどに関わることであり、コメディカルの重要性を再認識できた。他の地域での研修と比較すると、当直や救急外来対応（救急車以外）がなかった点は物足りなさを感じた部分ではある。それ以外は地域医療を学ぶという事に関しては充実した内容であったと思う。

○今回の臨床研修で得たと考えられるもの

今回の研修では自分でレントゲン撮影をして、フィルムを作成するといった地域医療ならではの経験もさせていただいた。おそらく大学病院で研修しているだけでは身につけな

いであろうスキルである。診療所や訪問診療では限られた設備の中でそれを最大限に生かして、患者さんの状態・緊急度を判断しなくてはならず、このような地域で診療するには幅広い知識と迅速な判断能力が必要であることを実感した。

また、これまでも過疎化・無医地区などについては言葉では分かっていたつもりだったがそれはいずれも想像でしかなく、今回このような地域に実際に足を運んでみて初めて深刻な状況を身に染みて感じる事ができた。この一か月で僻地医療の現実をしっかりと見ることができたのは私にとってはとても大きな収穫であったといえる。

最後に、無事に高知県での地域研修が終了したことにに関して、指導医である宮崎先生を含め、嶺北中央病院の先生方・コメディカルの方々・いの町立長沢診療所の東谷先生・研修前から丁寧に対応していただいた高知医療再生機構の方々、その他今回の研修に関わった全ての方々に心から感謝申し上げます。